

第77回 東葛しぜん観察会

オオハクチョウや冬鳥を観よう！

木村将夫（柏市）

日 時：2012年2月5日（日）10時～12時 天気：晴

場 所：清水口調整池（白井市）

参加者：一般 17名（内 子ども 2名） 指導員 21名

講 師：和仁道大氏

担当指導員：新堀昌邦 木村将夫 川瀬美幸

ユーカリの大木に囲まれた白井市の清水口調整池を中心とした野鳥の観察会でした。日本に飛来する白鳥の南限（太平洋側での南限）である千葉県で、白鳥を見ることが主体となりました。白鳥とはオオハクチョウ・コハクチョウ・コブハクチョウの総称ですが、今回はオオハクチョウの家族を観察することが出来ました。

シベリア方面から越冬のために3,000～4,000kmも離れた日本列島に飛来する多数の鳥の中で、わざわざ白井市までご苦労様という思いです。白鳥は家族で行動し、白い羽の白鳥の中に、まだ若い灰色の子どもの白鳥も混じっていました。白鳥の夫婦は一生涯離れない堅い絆で結ばれていると、和仁講師が力説しておりました。オシドリ夫婦とは違うのです。（オシドリは一年間で夫婦交代）

清水口調整池では13羽のオオハクチョウの家族を観察できました。その姿はボリショイバレイの「白鳥の湖」での表現を連想させるもので、参加者も大変感激されていました。都心から近くで交通の便も良く、駅から歩いて10分の場所で、金網越しですが真近かに観られるので、宣传次第では多数の方が観察会に参加される可能性があり、希少な場所です。北総線の利用客の増加にも貢献できると思います。

白鳥以外では30種近い野鳥が観察できました。特にオナガガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、オオバン、カツブリ等は繁殖期を迎え、精一杯のオシャレをした雄が輝いていました。ゴイサギも哲学者の顔をして、岸辺で考え事をしている様子が印象的でした。

参加者からは、こんな近くでたくさんの水鳥を観ることが出来、驚きの声が多く聞こえました。一年に一回はハクチョウと会いたいと言う声もありました。

